

# 令和7年度 近畿納税貯蓄組合総連合会会長賞

託されたお金のゆくえ

桜井市立桜井東中学校 2年 中山 紗和

ある日、夕食後に両親が「そろそろ消費税を納める準備をしないとな」と話していました。私は「どうしてそんなことをしてるん？」と聞きました。すると、「お店でお客様からお預かりした消費税を、国や自治体に納めるための準備やで」と教えてくれました。そのとき、私は初めて“消費税を納める”ということを意識しました。

私の家は、学校の制服や事務服、作業服、洋服雑貨などを販売しています。お店で商品を売るときには必ず消費税が加わりますが、それはお店の利益になるわけではありません。お客様から預かった税金を、決まった時期にきちんと納めるのです。この仕組みを知ったとき、「ただ買い物のときに払うだけ」だと思っていた消費税の見方が少し変わりました。

今年の衆議院選挙では、「消費税を下げる」「消費税をなくす」という言葉をよく聞きました。もし本当に消費税がなくなったらその分の財源はどうなるのだろう、と考えました。家でも、両親は選挙のニュースや各政党の考えを聞きながら「消費税の撤廃や減税もいいけど、消費税が社会保障のために必要だという考え方もあるよなあ」と言っていました。そのときは「そういう見方もあるんや」と軽く受けとめたのですが、今回作文を書くのに自分なりに調べてみました。

調べてみると、消費税は高齢者医療や年金介護サービス、保育園や幼稚園の運営、さらには少子化対策など、私たちの暮らしに深く関わることに使われていると分かりました。例えば、おじいちゃんやおばあちゃんが病院に通うときの医療費の一部や、保育園の先生の給料、地域の介護施設の運営費なども、消費税によって支えられています。また、災害時の被災地支援や道路・公共施設の維持にも役立てられていると知り、意外に思いました。

今回色々な側面から消費税を知りましたが消費税は「取られるお金」ではなく、「みんなで社会を支えるために出し合うお金」だという見方ができるようになりました。

税金を納めるときは負担に感じることもあると思います。しかし、もし自分や家族が医療や福祉の助けを必要としたとき、その費用を全て自分たちだけで負担するのは大変です。税金は、今助けが必要な人のために使われ、やがて自分や周りの人を支える仕組みでもあります。

私は将来、社会に出て働くようになったら納税者としての責任を果たしながら、税金の使い道についても関心を持ち続けたいと思いました。税は私たちの生活を守る大切な土台であり、それをどう支えていくかを考えることが、これから社会に必要だと感じました。